

## 「タイトル」野鳥研修会

「実施日」2019年2月24日（日）

「開催場所」仙川周辺から成城学園前駅付近

「主催者」FIT

「一文紹介」仙川周辺にいる水鳥や森林性の鳥などを観察し、身の回りで見られる野鳥に親しむ。

「公開記事」

恒例の野鳥研修会が開かれました。例年砧公園まで足を伸ばすのだが、砧公園は鳥が少なくなっているとのことで、今年は午前中だけの観察会。京王線仙川駅に集合。講師から双眼鏡の使い方の説明を受け、スタート。仙川沿いに野鳥観察を始める。昨年は観察開始直後、川の入口付近でアオゲラが2羽見られたとのこと。今年は残念ながら見られなかった。この鳴き声は何と講師から質問。カラスのこと。ハシブトガラスとハシボソガラスでは鳴き声が違うのだ。護岸の欄干に止まっていたのは冬鳥のツグミ。餌をいっぱい食べて太っている。川の中州にはハクセキレイやキセキレイが見られた。ハクセキレイが川の護岸のコンクリート壁に止まっていた。暖かくなると虫が出てくるので、それを食べるためにコンクリート壁に止まっているのだとか。途中の広い場所で参加者の自己紹介。講師が用意して下さった資料「身の回りで見られる（東京）カモの基礎知識」で講師から説明を受け、鳥について知識を深める。

観察の途中、おもしろい光景を見た。それはカワウの後をコサギがついていく。カワウは潜水して餌の小魚をとって食べるがコサギは潜水できないので、カワウが食べそこなった小魚をちゃっかり横取りする作戦らしい。カワウの「瞳見て！」と講師。カワウのエメラルドグリーンの「瞳」は美しいと講師の一言。

今日観察できた鳥数は27種。カモ：カルガモ、マガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモの6種。セキレイ：ハクセキレイ、キセキレイの2種。カラス：ハシブトガラス、ハシボソカラスの2種。サギ：ダイサギ、コサギ、アオサギの3種。カワウ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ツグミ、アオジ、アカハラ、スズメ、キジバト、カワラバト。

天候にも恵まれ、FIT会員対象の野鳥研修会を無事に終えることができました。

「スタッフの役割と氏名」講師（幹事）齊藤 幸雄

「参加者数」13名 「報告者」内藤公雄



説明文：観察の様子